

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : アンモニアガス

製品番号 (SDS NO) : 2025\_Ammonia\_Gas\_JP-3

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 半導体製造用

使用上の制限 : 推奨用途以外への使用は禁止する。

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 株式会社アサヒグラフィック

住所 : 150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-23-8 KOHGAビル3F

電話番号 : 03-6878-8985

FAX : 03-5424-3018

緊急連絡先電話 : 03-6878-8985

## 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性ガス:区分 1

高圧ガス:液化ガス

健康に対する有害性

急性毒性(吸入):区分 4

皮膚腐食性/刺激性:区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分 1

呼吸器感受性:区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 1(中枢神経系、呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分 1(呼吸器)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):区分 3

(注) 記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

極めて可燃性の高いガス

高圧ガス: 熱すると爆発のおそれ

吸入すると有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

重篤な眼の損傷

吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

臓器の障害(中枢神経系、呼吸器)

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器)

水生生物に有害

## 注意書き

## 安全対策

- 環境への放出を避けること。
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- ガスを吸入しないこと。
- 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
- 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

## 応急措置

- 漏えいした場合、着火源を除去すること。
- 漏えい(洩)ガス火災の場合:漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。
- 特別な処置が必要である。
- 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- 直ちに医師に連絡すること。
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
- 呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。
- 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

## 保管

- 換気の良い場所で保管すること。
- 施錠して保管すること。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

## 廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別:

化学物質

| 成分名   | CAS No.   | 含有量 (%) | 化審法番号 |
|-------|-----------|---------|-------|
| アンモニア | 7664-41-7 | >99.999 | 1-391 |

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

## 危険有害成分

毒物及び劇物取締法「劇物」該当成分

該当

労働安全衛生法「表示すべき有害物」該当成分

該当

労働安全衛生法「通知すべき有害物」該当成分

該当

## 4. 応急措置

## 応急措置の記述

## 吸入した場合

- 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。

**皮膚(又は髪)に付着した場合**

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

直ちに医師に連絡すること。

**眼に入った場合**

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

**飲み込んだ場合**

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

**急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状**

(吸入もしくは飲み込んだ場合の症状)

灼熱感、咳、咽頭痛、息切れ

(皮膚に付着もしくは目に入った場合の症状)

痛み、水疱、皮膚熱傷、充血、重度の熱傷

**医師に対する特別な注意事項**

特別な処置が必要である。

**5. 火災時の措置****消火剤****適切な消火剤**

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

**使ってはならない消火剤**

使ってはならない消火剤データなし

**特有の危険有害性**

燃焼の際に有毒な窒素酸化物を生成する。

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

**消火を行う者への勧告****特有の消火方法**

漏えい(洩)ガス火災の場合: 漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

漏えいした場合、着火源を除去すること。

霧状水により容器を冷却する。

安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護する。

消火水の下水への流入を防ぐ。

**消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置**

防火服又は防災服を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

**6. 漏出時の措置****人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

区域より退避させる。

関係者以外は近づけない。

換気不十分な場所で漏洩を処理するときは自給式呼吸保護具を着用する。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

**環境に対する注意事項**

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

河川等に流出した場合は、管轄機関に連絡をする。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材**

清浄な帯電防止工具を用いて吸収したものを集める。  
漏洩物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。

**二次災害の防止策**

安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。

**7. 取扱い及び保管上の注意****取扱い****技術的対策**

(取扱者のばく露防止)

ガスを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

**安全取扱注意事項**

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

**接触回避**

酸、酸化性物質、アルコール類、金属との接触を避けること。

**衛生対策**

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

取扱い後はよく手を洗う。

**保管****安全な保管条件**

容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

安全な容器包装材料データなし

**8. ばく露防止及び保護措置****管理指標****管理濃度及び濃度基準値**

設定されていない

**許容濃度****日本産衛学会**

25ppm; 17mg/m<sup>3</sup>

**ACGIH**

TWA: 25ppm; STEL: 35ppm (眼損傷; 上気道刺激)

**ばく露防止****設備対策**

- 全体換気装置又は局所排気設備を設置した場所で取扱う。
- 洗眼設備を設ける。
- 手洗い/洗顔設備を設ける。

**保護具****呼吸用保護具**

- 呼吸用保護具を着用すること。

**手の保護具**

- 化学防護手袋 推奨材質: 非浸透性もしくは耐化学品ゴム

**眼の保護具**

- 側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

**皮膚及び身体の保護具**

- 顔面保護具を着用する。
- 保護衣を着用する。
- 繰返し又は長時間取扱いの場合、耐浸透性の保護衣とブーツを着用する。

**9. 物理的及び化学的性質****基本的な物理的及び化学的性質に関する情報**

物理状態: 気体(液化ガス)

色: 無色

臭い: 刺激臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点:  $-77.7^{\circ}\text{C}$

沸点又は初留点:  $-33.3^{\circ}\text{C}$

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体): 可燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:

爆発下限: 15.4vol %

爆発上限: 33.6vol %

引火点: 適用外

自然発火点:  $630^{\circ}\text{C}$

分解温度データなし

pHデータなし

動粘性率データなし

溶解度:

水に対する溶解度: 540g/liter( $20^{\circ}\text{C}$ )

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数: log Pow: -1.14

蒸気圧: 1013kPa( $26^{\circ}\text{C}$ )

密度及び/又は相対密度: 0.7( $-33^{\circ}\text{C}$ )

相対ガス密度(空気=1): 0.6

粒子特性: 適用外

**10. 安定性及び反応性****反応性**

反応性データなし

**化学的安定性**

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

**危険有害反応可能性**

爆発性の蒸気-空気混合物を形成するおそれがある。

## 避けるべき条件

避けるべき条件データなし

## 混触危険物質

酸、酸化性物質、アルコール類、金属

## 危険有害な分解生成物

熱分解により以下の物質を生成する。

窒素酸化物

## 11. 有害性情報

## 毒性学的影響に関する情報

## 急性毒性

急性毒性(経口)

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

急性毒性(経皮)

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

急性毒性(吸入)

[製品]

区分 4, 吸入すると有害

[成分データ]

[NITE-CHRIIP]

ガス: ラット LC50: 7679 ppm (4時間)

## 局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[製品]

区分 1, 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

[成分データ]

[NITE-CHRIIP]

区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

区分 1, 重篤な眼の損傷

[成分データ]

[NITE-CHRIIP]

区分 1

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

[製品]

区分 1, 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

[成分データ]

[NITE-CHRIIP]

区分 1

皮膚感作性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

## 生殖細胞変異原性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

## 発がん性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

## 生殖毒性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

## 特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[製品]

区分 1, 臓器の障害

[成分データ]

[NITE-CHRIP]

区分 1 (中枢神経系、呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[製品]

区分 1, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

[成分データ]

[NITE-CHRIP]

区分 1 (呼吸器)

## 誤えん有害性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

## 水生環境有害性

[製品]

区分 3, 水生生物に有害

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[NITE-CHRIP]

魚類 (ニジマス) 96時間 LC50: 13.0 mg/L (総アンモニア換算値。被験物質: NH<sub>4</sub>Cl, pH: 8.29)

水生環境有害性 長期(慢性)

[NITE-CHRIP]

甲殻類 (ミシドシュリンプ) 32日間 NOEC: 3.47 mg/L (総アンモニア換算値。被験物質: NH<sub>4</sub>Cl, pH: 7.92-8.01)

## 水溶解度

54 g/100 mL (20°C) (出典: ICSC, 2013)

## 残留性・分解性

[成分データ]

急速分解性あり (水生環境中で速やかに硝化) (出典: NITE)

## 生体蓄積性

## [成分データ]

log Kow: -1.14 (出典: NITE)

## 土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

## 他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

## 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

## 汚染容器及び包装

汚染容器及び包装データなし

## 14. 輸送上の注意

## 国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 1005

正式輸送名 :

液体アンモニア

分類または区分 : 2.3

副次危険 : 8

容器等級 : 該当しない

指針番号: 125

特別規定番号 : 23; 379

## IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 1005

正式輸送名 :

液体アンモニア

分類または区分 : 2.3

副次危険 : 8

容器等級 : 該当しない

特別規定番号 : 23; 379

## IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 1005

正式輸送名 :

液体アンモニア

分類または区分 : 2.3

副次危険 : 8

容器等級 : 該当しない

特別規定番号 : A2

## 環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当): 該当

## 特別の安全対策

特別の安全対策データなし

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

本品はバルク輸送されない。

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

ガス類 毒性ガス 分類2 区分2.3

## 航空法

## 積載禁止

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

劇物(第2条別表2)

該当100%(法令番号 4)

労働安全衛生法

特化則 特定化学物質 第3類

該当

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

該当(規則別表第2の152)

名称通知危険/有害物

該当(規則別表第2の152)

別表第1 危険物(第1条、第6条、第9条の3関係)

危険物・可燃性のガス(令別表第1第5号)

化学物質管理促進(PRTR)法

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

労働基準法

疾病化学物質(規則別表第1の2第4号1)

該当

消防法

届出を要する消防活動阻害物質

危険物の規制に関する政令別表第2: 劇物(数量 200kg)

アンモニア

高圧ガス保安法

液化ガス(法第2条3): 圧力(常用温度又は35℃)  $\Rightarrow$  0.2MPa

特定高圧ガス(法24条の2・施行令第7条)

毒性ガス(一般高圧ガス保安規則第2条2)

化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

悪臭防止法

該当 政令番号1: 敷地境界線許容限度 1.0 - 5.0 ppm

大気汚染防止法

特定物質 政令第10条第1号から第28号

該当(政令第10条第1号)

水質汚濁防止法

有害物質

該当 法令番号 26: 100mg-(アンモニア性窒素  $\times$  0.4+亜硝酸性窒素+硝酸性窒素)/liter

## 16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 23rd edit., 2023 UN

IMDG Code, 2024 Edition (Incorporating Amendment 42-24)

IATA 航空危険物規則書 第66版(2025年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2025 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2024 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)

ASAHI GRAPHIC アンモニアガス, 株式会社アサヒグラフィック, 2025\_Ammonia\_Gas\_JP-3, 2025/04/14  
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)

Supplier's data/information

GESTIS-Stoffdatenbank

Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

#### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ(独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(NITE-CHIRP)(令和5年度(2023年度)公表分まで))です。